

令和5年12月21日

発 言 者	発 言 要 旨
佐藤（正）委員	補正予算事業の効果を早期に発現させるためには、早期の執行が重要となるが、今回、追加補正した事業は全て繰り越すのか。
管理課長	全額繰越しである。
小松委員	今回の補正予算の規模は、昨年度と比してどうか。
管理課長	土木公共分野では230億6,000万円の追加補正であり、昨年度の12月補正及び2月補正を合わせた220億9,000万円と比して約4%増となっている。
小松委員	発注時期や施工時期等、今後の執行スケジュールはどうか。
管理課長	予算可決後、速やかに発注できるように準備を進めており、できる限り早期の発注・契約とすることで工期の平準化も含め円滑な執行に努めていく。
小松委員	河川の工事は冬期間に実施できるが、道路工事は難しい面がある。施工時期への配慮もお願いしたい。
小松委員	国土強靱化関係予算は、河川増水等の情報を提供するためのカメラ設置等の防災関係事業にも活用可能だと考えるが、災害情報を提供する設備に係る予算はあるか。
河川課長	10箇所ダムで、ダムからの放流をコンピューター管理する設備の更新を予定しており、よりの確・適切な操作により河川砂防情報システムを通じた県民への防災情報の提供にもつながると考える。
小松委員	ダム修繕の詳細はどうか。
河川課長	発電では神室、高坂、木地山、温海川、荒沢の5ダム、水道水では神室、綱木川、田沢川の3ダムで企業局と共同管理をしている。これらのダムにおいて、ダム操作のコンピューターの更新やゲート等の設備更新といった長寿命化対策を行う。
小松委員	高坂ダムで堆砂容量が当初の設定期日より早く上限に達しつつあると聞いたが、今回の補正予算での対応はあるのか。
河川課長	高坂ダムを含め、木地山、荒沢において、ダムの有効貯水量を確保するため、上流から流れてくる土砂を防ぐ対策に取り組む。
小松委員	今回の補正予算と来年度当初予算を合わせた、いわゆる16か月予算の予算規模等の見込みはどうか。
管理課長	12月補正予算は昨年度比4%増、来年度当初予算は要求段階で投資的経費が5.8%増である。まだ当初予算が要求段階ではあるが、16か月予算として国土強靱化等に資する予算を確保すべく努めていきたい。

発 言 者	発 言 要 旨
加賀副委員長  管理課長	<p data-bbox="424 136 1422 170">物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用に関する検討状況はどうか。</p> <p data-bbox="424 226 1474 304">物価高騰への対応としては、政府では、国土強靱化関係予算に含めて対応しており、県土整備部において物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用はない。</p>
加賀副委員長  下水道課長	<p data-bbox="424 360 1070 394">流域下水道事業における補正予算の詳細はどうか。</p> <p data-bbox="424 450 1474 607">4 処理区において、ストックマネジメント計画に基づき施設の更新等を行う。具体的には、山形浄化センターでは水処理施設の改築、管廊の耐震化、村山処理区では水処理施設の改築、置賜処理区では水処理施設の改築、耐震化、庄内処理区では汚泥処理施設の改築工事を行っていく。</p>
高橋（啓）委員  管理課長	<p data-bbox="424 663 1275 696">2月にも国土強靱化関係予算の補正が行われる可能性はあるのか。</p> <p data-bbox="424 752 1422 786">現状、捉えている政府の動きとしては、更に補正があるとは認識していない。</p>